

平成27年11月17日

道 路 局

平成27年度重点「道の駅」企画提案募集

～地域創生の核となる「道の駅」の優れた取組を応援します。～

「道の駅」は、地方創生を具体的に実現していくための極めて有力な手段であり、国土交通省では、平成26年度より関係機関と連携して、地方創生の核となる特に優れた取組を選定し、重点的に応援する取組を実施しています。

平成27年度は、地方創生に資する地産地消の促進及び小さな拠点の形成等を目指した「道の駅」の新たな設置、又はリニューアル等の企画提案を募集し、引き続きこの取組を実施します。

<募集対象とする「道の駅」に関する具体的な取組例>

- ①産業振興、②地域福祉、③交通結節点、④防災、⑤観光総合窓口、⑥インバウンド観光、⑦地方移住等促進、⑧交流・連携・・・別紙1（①②③⑤⑦⑧は中山間地域及び漁村地域等の「道の駅」を対象）

<支援内容>

- 自治体・関係機関による協議会等を設け、複数の関係機関の制度の活用等について、ワンストップで相談できる体制を作ります。
- 道路区域内の駐車場、休憩施設、トイレ、道路情報提供施設等は、直轄道路事業及び社会資本総合交付金等を活用して国土交通省が支援します。
- 重点「道の駅」の取組を広く周知します。

<募集期間>

平成27年11月17日～12月10日

<選定の流れ>

- 各地方整備局等からの推薦を受けた企画提案に対して、有識者の意見を踏まえて重点「道の駅」を選定します。

問い合わせ先：

| | |
|-----------------|--|
| 道路局 企画課 | 企画専門官 井坪 慎二（内線 37552） |
| 代表：03-5253-8111 | 企画課直通：03-5253-8485 FAX：03-5253-1618 |
| 国道・防災課 | 企画専門官 依田 秀則（内線 37832） |
| | 課長補佐 竹内 勇喜（内線 37842） |
| | 国道・防災課直通：03-5253-8492 FAX：03-5253-1620 |

別紙 1 : 「道の駅」に関する具体的な取組例

| |
|---|
| ①産業振興 地域の特産品を活かした産業振興「道の駅」 |
| ②地域福祉 地域の高齢化等に対応した住民サービス（地域福祉）を提供する「道の駅」 |
| ③交通結節点 公共交通の結節点として地域住民に交通サービスを提供する「道の駅」 |
| ④防災 災害時に高度な防災機能を発揮する「道の駅」 |
| ⑤観光総合窓口 地域の観光総合窓口となる「道の駅」 |
| ⑥インバウンド観光 インバウンド観光を促進する「道の駅」 |
| ⑦地方移住等促進 地方移住・ふるさと納税推進に貢献する「道の駅」 |
| ⑧交流・連携 地域間の交流・連携を促進する「道の駅」 |
| ※上記取組を実践する方法として 「道の駅」相互のネットワーク化により効果を発揮する「道の駅」 |

- 体験ほ場施設として、トマトハウス(1,000㎡)を整備し、栽培管理者として県内の農業者等養成専門大学の新卒者を雇用。
- 特産品(トマト)のブランド化、6次産業化による地場産業の振興と雇用創出

「ひたちおおた」(茨城県常陸太田市)



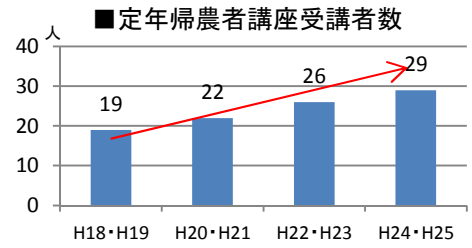
体験ほ場施設イメージ



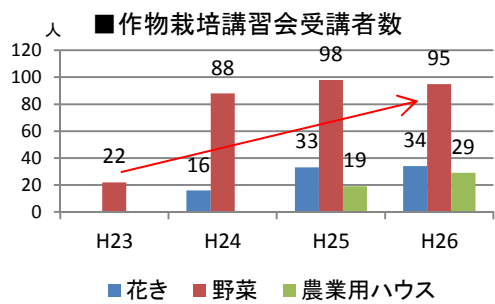
新規就農者や定年帰農者等支援イメージ



地場産物による惣菜の加工販売イメージ



H18以降、受講者のうち39名が実際に農業従事者として朝市等に出荷



「(仮称)にちなん」(鳥取県日南市)

集客交流や地場産業の振興(6次産業化推進)



道の駅「にちなん(仮称)」施設配置案



農産物加工所(イメージ)

地域の高齢化等に対応した住民サービス(地域福祉)を提供する「道の駅」

- 地域の高齢化に対応し、診療所、保健福祉センター、役場機能など、多様な住民サービスをワンストップで提供。
- 高齢者の日常生活支援が課題となっている地域において、週5日間の移動販売を実施。移動販売車に住民が集まることで、その場がコミュニティの場となり、情報交換など地域の活性化に貢献。

「美山ふれあい広場」 (京都府南丹市)



圏域中心から約30km離れた旧美山町地域で
住民サービスを集約提供
(平成12年に、住民有志の共同出資により
店舗運営会社を設立)

【地域活動、保健福祉の充実】

- ・診療所 ・高齢者福祉施設 ・特産物+日用品販売
- ・行政窓口 ・ATM

【地域内を結ぶ路線バス

の結節点】

- ・バス停(コミュニティバス、
デマンドバスによる
アクセス確保)

【地域内外との交流拠点】

- ・コミュニティセンター
- ・観光案内所
- ・地元牛乳の加工販売施設



「七ヶ宿」 (宮城県七ヶ宿町)

《行政と道の駅が連携した取組》

【買物弱者の支援】

- ・町を4ブロックに分割し、町内全域での営業
- ・食料品から日用品まで住民ニーズに応えた販売
- ・買物荷物を家の中まで運ぶサービスの実施

【地域の活性化】

- ・対面販売のメリットを活かした、情報交換
- ・移動販売車自体がコミュニティーの場として機能し、地域の活性化に繋がっている

【見守りネットワーク】

- ・住民の良き話し相手
- ・役場と連携した安否確認



各家庭をこまめに廻り、荷物を家の中まで運ぶ、高齢者へ優しいサービスの実施



地域の「安全・安心」を守る「道の駅」
移動販売車



＜移動販売を利用する地域住民＞
雨の日でも大勢の高齢者が移動販売車を利用する

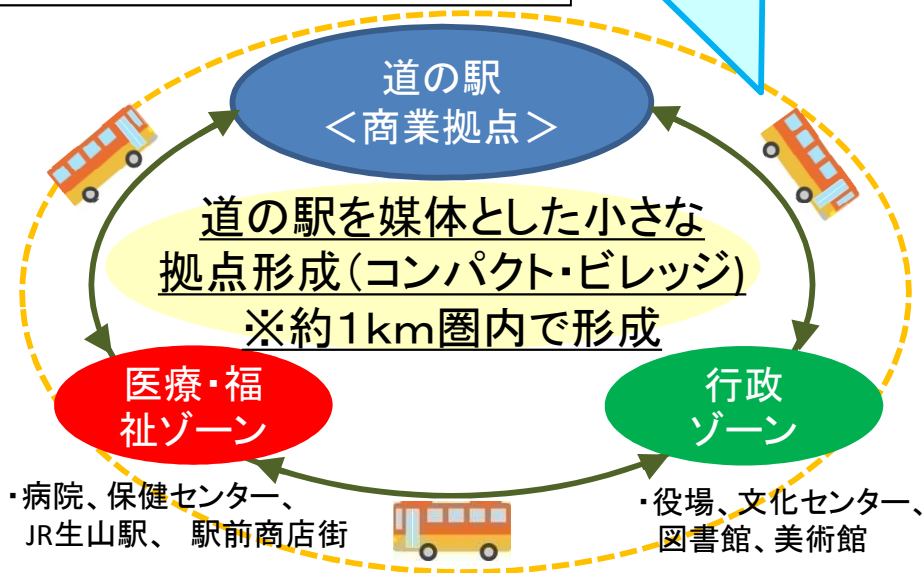
- 鳥取県日南町において、「道の駅」を中心に小さな拠点を形成、商業拠点となる「道の駅」と医療福祉ゾーン及び行政ゾーン相互を町営バスとデマンドバスによって連携。
- 北海道南富良野町において、「道の駅」が地域外と連絡する都市間高速バスと地域内を運行するデマンドバスの結節点として機能。

「（仮称）にちなん」（鳥取県日南町）

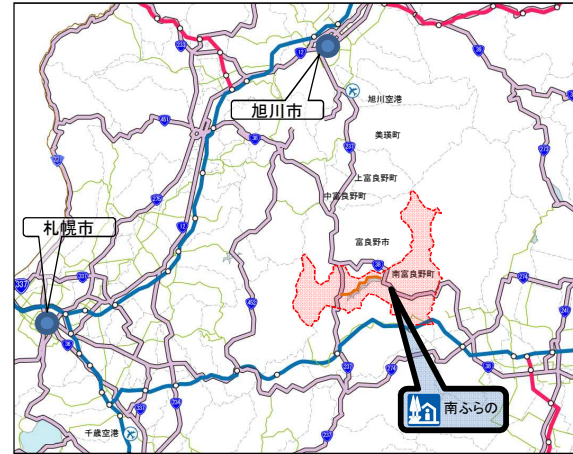


「道の駅」を拠点として、医療・福祉ゾーンと行政ゾーン相互を町営バスとデマンドバスにより連携

町の中心地整備による拠点形成（イメージ）



「南ふらの」（北海道南富良野町）



デマンドバスは町内全域をカバー



デマンドバス利用状況



- 「道の駅」は、停電時でも24時間サービス可能な発電設備、備蓄倉庫、ヘリポートなどを備え、地域の防災拠点化。
- 東日本大震災でも、救命・救急活動、物資集配、住民避難、食料供給などの拠点として機能。

<防災機能を強化した「道の駅」の事例>



「美濃にわか茶屋」(岐阜県美濃市)

- 発災後3日間を想定した非常用電源を整備(食堂、情報提供施設、トイレの利用が可能)
- 災害時は食堂が炊き出し施設として使用(40tの飲料水貯水タンクを設置)



○ 「道の駅」に整備する防災施設の例



非常用発電機



備蓄倉庫



飲料用貯水槽



ヘリポート

<東日本大震災で機能した「道の駅」の事例>

○ 自衛隊の後方支援拠点



「遠野風の丘」
(岩手県遠野市)

○ 住民避難所

- ・ 自家発電により24時間開館し、おにぎり、菓子等を提供



「三本木」
(宮城県大崎市)

○ 被災住民へ食料・日用品の供給

- ・ 震災後、地元農家の出荷により1週間で営業再開
- 町で唯一の食料・日用品販売店



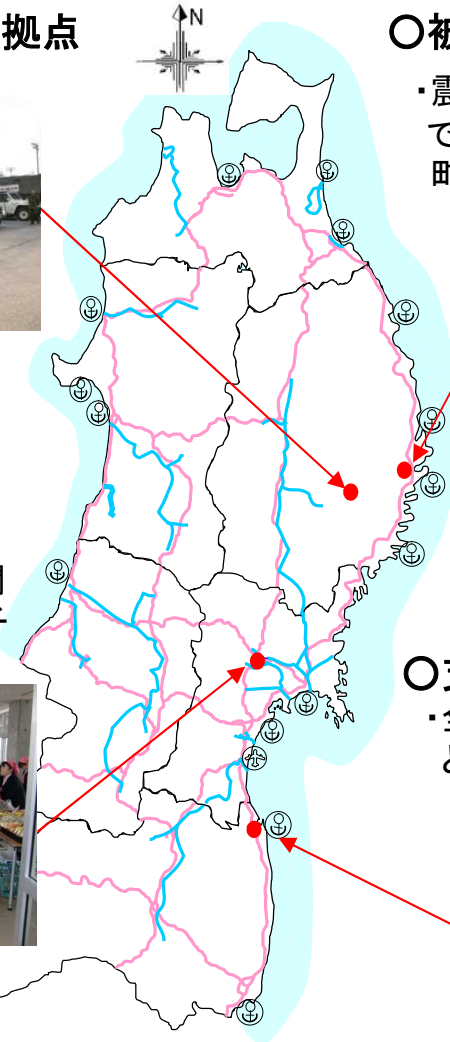
「やまだ」(岩手県山田町)

○ 支援物資集配の拠点

- ・ 全国から届く支援物資の中継地として利用



「そうま」(福島県相馬市)



- 道の駅に観光協会職員を配置し、地域ボランティアガイドと連携した“おもてなし”を実践。
- 世羅町における観光総合窓口として、立ち寄った人を町内の観光スポットにいざなう役割を担う。

「神話の里 白うさぎ」(鳥取県鳥取市)



位置図

<連携拠点イメージ>

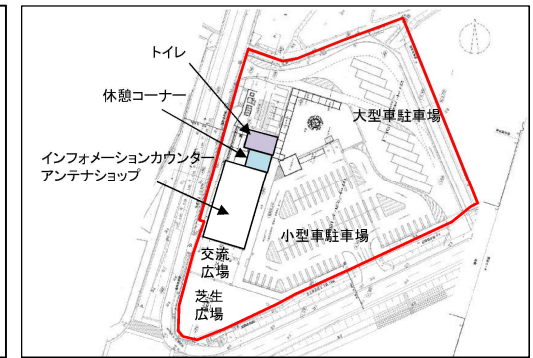


白兔神社



白兔観光協会ボランティアガイド

「世羅」(広島県世羅町)



- ・ 観光案内係「観光コンシェルジュ」を専属配置。
- ・ 「観光コンシェルジュ」は、地元情報をリアルタイムに提供。さらには季節に応じた周遊プラン等を紹介。
- ・ 町の魅力を知ってもらうため、立ち寄った人を町内の観光スポットへ誘う役割をもつ「町の玄関口のアンテナショップ」を目指している。

周辺「道の駅」と連携

白兔神話エリア

- 神話「白うさぎ」
- ジオパーク
- マリンスポーツ

体験・滞在観光

近隣エリア

- 古代山陰道遺跡
- 民話「湖山長者」等
- ジオパーク (湖山池・吉岡温泉)

体験・周遊観光

「道の駅」
神話の里白うさぎ

周辺「道の駅」と連携する仕掛け

- ★ 白兔神話を元にした商品
 - 大国主命は、「道の駅神話の里白うさぎ」のみで販売
 - 八上姫は、「道の駅 清流茶屋かわはら」のみで販売
 - 2つ集めると台紙がハートマークとなる



大国主命 八上姫



観光コンシェルジュ 案内風景



インフォメーションセンター

- 観光コンシェルジュ、通訳ホットライン等による周遊観光の促進。
- 成田国際空港との至近距離を活かし、ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食・日本人の伝統的食文化」をイメージとした「発酵文化」を世界に向けてPRし、海外からの観光客を誘致。

「ニセコビュープラザ」(北海道ニセコ町)



至札幌・小樽 5

至函館

至洞爺湖

至札幌・新千歳空港

スキーリゾートの賑わい

HANAZONOアクティビティセンター

ニセコスキーリゾートエリア

モウエリア

アンスエリア

東山エリア

ニセコ市街地

「道の駅」ニセコビュープラザ

道の駅で観光案内

道の駅で“地域”を知る

「道の駅」がゲートウェイとなり、地域ぐるみで宿泊施設、飲食店、ATM、天候等を総合的に案内

地域ぐるみでインバウンド観光の受け入れ環境整備 (通訳ホットラインの役割も担うニセコ町商工観光課)

「発酵の里こうざき」(千葉県神崎町)



圏央道・成田空港のポテンシャル

圏央道と国道356号の両方からアクセス

茨城県

千葉県

神崎町

成田空港

利根川

国道356号

道の駅「こうざき」

神崎IC

| 凡例 | |
|----|-----|
| ■ | 開通済 |
| ■ | 事業中 |
| ○ | 調査中 |

地域ならではの発酵メニューを提供

地元農作物の直売

カフェ&レストラン

発酵市場

新鮮市場

コンビニ エンスストア 24時間トイレ

「和食・日本人の伝統的食文化」をイメージとした「発酵の町神崎」を世界に向けてPR

屋外イベント広場

※イメージ図であり、今後、変更があります。



▲パウダースノーを求め増加し続ける外国人観光客



世界20カ国を対象として「ワールド・スキー・アワード」において表彰

●発酵市場 (発酵商品や特産品の展示販売、情報コーナー)

健康を促進する発酵をテーマにした特産品や加工品を展示



●日本酒の試飲もできる酒蔵まつり (H21～)

- ・人口6500人の町に約5万人が来訪
- ・JR東日本は新宿から直通臨時列車を運行



地方移住・ふるさと納税推進に貢献する「道の駅」

- 地方移住相談や移住体験ツアーの窓口を設け、情報提供のワンストップサービスなど、移住推進に「道の駅」が活躍。
- ふるさと納税の情報提供、お礼として季節の地元産品や記念プレート設置など、「道の駅」が貢献。

「小国」(熊本県小国町)

○ UIJターン情報発信及び相談窓口

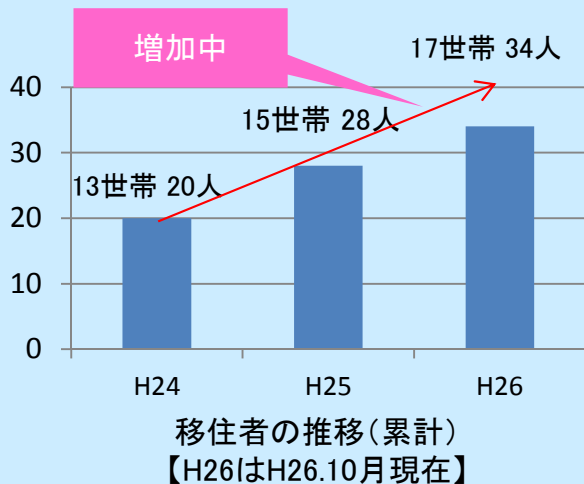
- ・「道の駅」が相談窓口や移住者等の交流の場を設け、移住を促進。
- ・町内の就職や住まい探しの橋渡しを実施。



移住者へのヒアリング



移住者の方々との交流会



「からむし織の里しょうわ」(福島県昭和村)

○ 職業体験を通じた移住促進

- ・伝統工芸の職業体験をする「織姫体験生制度」を実施。
- ※体験生は住民票を移し、住宅を村が用意



国選定保存技術「からむし織」

「大月」(高知県大月町)

○ 移住体験ツアー及び相談窓口

- ・「道の駅」が移住体験ツアーの実施や相談窓口となり、定住を促進。

<移住体験ツアー>
農業体験・郷土料理体験・先移住者との交流会・定置網漁見学・空き家案内・町内散策など



「たるみず」(鹿児島県垂水市)

○ 「道の駅」でふるさと納税をPR

- ・「道の駅」にパンフレットを設置し、納税者※には寄付者証を発行し、構内温泉施設入浴が無料
- ※5千円以上

「みやま」(福岡県みやま市)

○ ふるさと納税のお礼に地元産品送付

- ・ふるさと納税者※に、「道の駅」から12カ月間、毎月3,000円相当の季節に応じた特産品をお届け
- ※10万円以上



地元産野菜詰め合わせ



八女茶詰め合わせ

「パティオにいがた」(新潟県見附市)

○ ふるさと納税の記念にベンチに納税者名を刻印



地域間の交流・連携を促進する「道の駅」

- 「道の駅」への体験交流窓口設置による交流人口の増加。
- 「道の駅」と大学が連携し、地域資源を活用した観光ツアーの企画や商品開発等を実施し、地域活性化を支援。

「あおき」(長野県青木村)



「吉野路大塔」(奈良県五條市)

水害で休業していたレストランを
帝塚山大学の**学生が再開**(開
発から調理・接客にいたる**全ての
運営を学生が実施、延べ約
2,000人が来店**)



「TEZU Cafe(テヅカフェ)」を運営する
学生
(道の駅吉野路大塔)

「もてぎ」(栃木県茂木町)

跡見学園女子大学の学生に
よる**観光ツアーの企画検討**
(約70名が参加し、10月24日に
ツアー開催)



学生が企画した観光ツアー
(道の駅もてぎ)

長野県の東部山間部に位置し、H18から始まった合宿受け入れから体験学習が広まり
現在、活発に行われている(H25村の人口(4,619人)の半数程度の体験学習者を受け入れ)。



道の駅施設での体験学習
平成25年8月坂戸市の小学生



リフレッシュパークでの体験学習
平成26年8月インドネシアの地方公務員

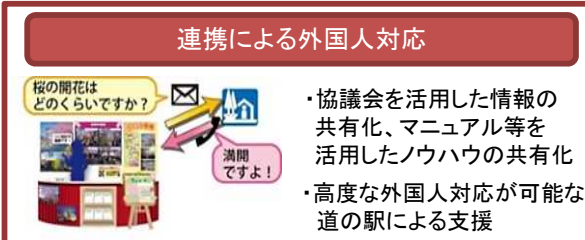
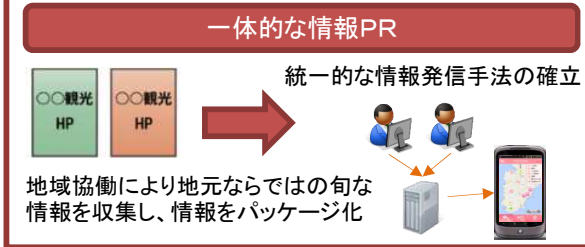
- 道の駅相互の連携、ネットワーク化を図り、地域の多様な観光情報を、道の駅を起点に一体的に発信することが可能。
- 道の駅相互の連携、ネットワーク化を図り、地域の周遊観光体制の構築。

「伊豆道の駅ネットワーク」(静岡県伊豆地域 7市6町)

●道の駅のネットワーク化『相乗効果』を発揮

- 【伊豆の魅力向上】市町ごとにバラバラの観光情報を一体的に情報発信(伊豆半島全域の多様な観光資源をPR)
- 【外国人対応力強化】既存・新設のビジット・ジャパン案内所との連携による機能補完や、既存駅とのノウハウ共有

ネットワーク効果のイメージ



しまなみ海道周辺「道の駅」(愛知県今治市)

国内外のサイクリストを誘致



しまなみ海道周辺の観光マップ

5つの「道の駅」が連携して地域の魅力を情報発信

